



茂木 利秋さん
(面替)

ハーブの魅力

私は面替で水田とサニールナス・リーフレタスを生産する農家です。そして冬期間を利用したハーブの栽培をしています。

平成21年9月、町の産業経済課長さんより、空いている農地を利用したハーブの栽培についてお話がありました。

10月15日、北安曇郡池田町の「カミツレ研究所」へハーブ栽培の視察に参加させて頂きました。

私はハーブと聞かされ、広大な北海道のラベンダー畑を思い出しながら行きましたが、視察したハーブは「カミツレ」と呼ばれる種類でした。

調べてみると、キク科のハーブで西洋名「カモミール」、和名「カミツレ」加「密列」と言われるハーブでヨーロッパでは古くから「ハーブの女王」と呼ばれ

多くの人たちから愛されてきた甘い香りのハーブで、カモミールと言う名前は、古代ギリシヤ人からりんごのような香りのするこの花を「カマイリ大地」の「メロン＝りんご」とよばれたことに由来しているとありました。

カモミールには様々な薬効があり、安眠・リラクゼーションの作用を目的にハーブティーとして飲むことは知られていますが、化粧品や入浴剤・洗剤などにも使用されているとのことでした。

カミツレの栽培は、秋に苗を植え、冬を越し、花の咲く6月～7月に刈り取り乾燥させて出荷するものでそれほど面倒なことはありませんが、化学肥料や農薬・除草剤の使用は禁止されています。

ハーブの栽培は難しいものではありませんし、出荷

することで多少の収入もあります。

空いた農地を使い女性や高齢の方でも簡単に栽培できると思います。

ハーブ栽培に取組む仲間も徐々に増えてきました。

興味のある方、始めてみたいとお考えの方に苗をお分けします。 〓ご連絡を〓

電話 32・5131

茂木まで



カモミール



近年の情報伝達の技術の進歩は目ざましく、瞬く間に全世界に同時映像や音声を届ける事ができる。非常に便利な反面、プライバシーの保護や子供達・一般社会に公開したくない映像等も配信がされ、自分達の思想・戦略に利用され、日本においても模倣的な事件が起るなど弊害が生じている。

いかに便利な機能の機械でも使用する人間の使い方により、益にも害にもなりうる。機械には思想や感情はない。「白か黒」「イエスかノー」合理的ではあるが、反面日本人の長年培ってきた人を思いやる心や加

賀友禅の着物にみられる虫くいとわれる枯葉もボカシの技術を巧みに使い織物に描く日本人の繊細な感覚・感情。日本文化の持つ侘・寂の世界も貴重だ。

先頃から見直されている「おもてなし」の心、人ひとが相手の顔・目を見て息づかいを感じながら話す事。これが最もお互いの理解を深めるのではないか。全く言葉が通じなくても身振り手振りで相手に通じさせる事もできる。

古越 弘



しゃくなげ